

新技術評価委

下旬から整備局ごとに開催

国交省 活用への取り組み加速

国土交通省は今月下旬から、**各地方整備局ごとに新技術活用評価委員会**の初会合を順次開催する。4月に再編・強化された「公共工事等における技術活用システム」の1環。民間から受け付けている新技術の審査・評価を行うとともに、評価委の今後の運用方法や改善点などについて話し合う。同省は今後、新システムの民間企業向け説明会も開き、民間企業が開発した優れた建設技術を公共工事に活用する取り組みを一段と加速させる。

従来の「技術指定システム」「テーマ設定技術募集システム」「工事選定技術募集システム」を再編した新しい技術活用システムには、**評価試行方式**と「テーマ設定技術募集方式」の2種類がある。

評価試行方式では、北海道開発局を含む9地方整備局が窓口となって民間の技術を随時受け付けて、産学官のメンバーで構成する新技術活用評価委員会を各整備局ごとに設け、年4回会合を開催。受け付けた民間技術の内容・有用性などを審査・評価する。安全性や耐久性といった性能を確認し、問題がなければ施工現場での試行結果も評価されることになっている。

委員の審査・評価対象となる。改善点があれば、評価委が指摘して技術のアップデートを促す。

従来のシステムでは、官側委員の選考に対し、産学官の有志者の委員は第三者的に意見を述べる程度の関与だったが、新システムでは審査・評価に積極的にいかかわる。審査が

事前の1回だけでなく、改善を指摘するような機会も従来はなかったが、新システムでは試行結果も評価対象にして、企業任せだった従来システムの欠点を改善した。

新技術活用策 産官学が検討

4.5.7.1 四国整備局で評価委員会が初会合

民間の新技術を公共工事に活用するため、その情報収集や事前評価などを行う四国地方整備局新技術活用評価委員会の初会合が6月29日、高松市内で開催された。写真。委員会は学識経験者や日本土木工業協会四国支部など業界団体と土木研究所、四国地方整備局など産官学の各委員18人で構成。公共工事への有効な新技術の活用促進を図るため、その情報の収集や技術公募、事前評価、現場での試行および事後評価を実施する。



この後、04年度までの新技術活用の取り組みや、05年度からの新技術活用の新スキームなどについて事務局が説明。新技術活用促進の課題など話し合われた。